

2015 年度

小論文 早稲田大学 スポーツ科学部 2 月 14 日実施分

全体概観

【解答方式】 論述 【時間】 90 分 【大問数】 1 問

【難易度】 易化 昨年並み 難化

昨年度は図表の読解であったが、本年度は課題文が復活した。課題文の分量（問題用紙一枚分）も論述の字数（801 字以上 1000 字以内）も例年と同様であり、例年の出題形式に戻ったと言える。

内容について言えば、課題文は、スポーツへの参加がますます真剣になっていく過程において発生した「スポーツの社会的意義」、より限定すればスポーツが「集団的一体感の主な手段のひとつとして機能するようになった」という意義を主題として、様々な論点に触れたのち、この意義が、それがスポーツの対抗的な性格の現れであることで、「相互依存的な人間によってかたち作られる形態は協調と友好的な競争意識に資するものなのか、あるいはそれは絶え間なく真剣な戦いを生み出すのか」という問題」につながっていることを指摘している。このように課題文は、スポーツを単なる身体的運動として考えるのではなく、社会の中での位置づけからスポーツを考えるものであり、例年の傾向に即したものである。その意味で、過去問をよく研究していた受験生にとっては論述しやすい問題であっただろう。

設問自体は、課題文を読んで考えることを述べよというものであり、例年よりも自由度の高いものとなっている。本文末尾で指摘された「問題」について論じるのがオーソドックスな答案であろうが、より幅広い内容が許容されると考えられる。実際、本年度の課題文は多様な論点を含んでいる。上で指摘した点以外にも、例えば、上記のようなスポーツの意義が、スポーツ選手へ社会的圧力が加えられることによってスポーツにおける遊びの要素がさらに破壊されるという事態につながっていることや、この意義がまた、スポーツへの国家の介入を促し、スポーツを戦争の実行可能な代用とみなす考えに関わっていることなども論じられている。こうした論点について論述することも可能である。課題文のある意見論述問題では、まず課題文を要約し、そこから自分の論じる問いを設定するのが定石であるが、全ての要点を抽出する必要は必ずしもない。自分の論じたい内容に合わせて大胆に課題文を要約し、一貫性ある論述を組み立てた答案に高得点が与えられたはずである。

設問別分析

問題番号	区分	出題内容	分析	難易度
〔Ⅰ〕	小論文	論述 出典：N・エリアス、E・ダニング『スポーツと文明化』（大平章訳、法政大学出版局、1995 年）	課題文を読み、考えを述べる問題（801 字～1000 字）。	標準

学習アドバイス

本学部の小論文試験で頻出するテーマは「社会におけるスポーツの位置づけ」というものである。したがってこのテーマについて新書を読むなどして調べたり考えたりするとともに、新聞やニュースなどに親しみ、社会の流れに目を配っておこう。小論文の講座や模試を通じて、読解や要約、論述の練習を積んでおくことはもちろん重要だが、課題文のテーマが一貫しているので、過去問の研究も必須である。